

山行報告

★登山知識及び技術向上コース（小遠見山）（3月18日～19日）

参加者 会員(健常者3名)

☆3月18日

今年度2回目となる登山知識及び技術向上コースは、冬の大遠見山とした。小遠見山から中遠見山の間にテントを張り、冬山でのテントを体験し、雪上技術を身につけると共に、最高に美しい鹿島槍ヶ岳北壁のモルゲンロートを見ることを目的とした。しかし、天気予報は全体に良いのだが、日本気象協会の白馬村の天気予報を見ると、土曜の午後から曇りとなり、日曜日の朝は雪の予報になっていた。その予報が外れることを願って、スーパーあずさに乗込んだ。

あずさの車窓からは、いつもながらのすばらしい風景を堪能できる。大系線に乗り換えると、北アルプスの山々が迎えてくれる。蝶、常念、大天井、餓鬼岳と続き、蓮華岳、針ノ木岳、北葛岳も見えてくる。そして、運転席から爺ヶ岳や鹿島槍ヶ岳も見えるようになる。

神城駅で電車を降り、歩いてスキー場に行こうとすると、H君がバスがあるという。駅に止まっていたバスは、スキー場への送迎バスだった。これはラッキーだった。予定していた30分のロスタイムを短縮できる。

テレキャブの往復チケットを購入するが、これもどこで買えば良いのか分かりにくかった。それでもテレキャブに乗り込んで、ぐんぐん上がっていく。ただ、すでに上空は薄雲が広がって、青空がほとんど見えなくなっていた。

テレキャブを下り、アルプス第一ペアリフトで地蔵の頭に向かう。Kさんがリフトにワカンを引っかけてしまい、リフトを止めて外してもらっていた。



小遠見山を目指して登る

地蔵の頭に登らなくても良かったが、天気が悪化しているので、早めに写真を撮っておきたかったので、登ってみた。まずは見返り坂を登る。今日、最も傾斜のある登りだった。標高1,750m付近からは小遠見山が見える。尾根の東側には大きな雪庇が張り出している。



遠見尾根～見た五竜岳

1,850m付近まで来ると、五竜岳がよく見えるようになる。隣の唐松岳と麓に向かって緩やかに伸びる八方尾根、その向こうに白馬三山

が見えている。青空ならくっきり見えるところだが、曇り空のため、コントラストが弱く、良い写真にはなりそうにない。

ここからは雪庇を踏み抜かないように注意が必要だが、先行者のトレースがしっかり付いているので安心だ。傾斜も緩く快適に登る。小遠見山が近づくと鹿島槍ヶ岳が見えてくる。小遠見山に着くと、鹿島槍北壁がその下の雪渓、カクネ里の上に聳えている。八峰キレットを挟んで五竜岳への稜線もすばらしい。この山々がモルゲンロートに染まる姿を一番の楽しみにして来たが、今回は難しそうだ。



小遠見山から見た鹿島槍ヶ岳

もう16時になるので、小遠見山から少し下りたところにテントを張ることにする。竹ペグに付けたひもは細くなっていて頼りないが、まだ何とか大丈夫だろう。トイレも作ってテントに入る。



小遠見山を越えたコルモテント泊

☆3月19日

昨夜は早々にシュラフに入ったが、テントがばたばたと風にはためく音が強く、よく眠れそうにないので、外に出て、外張りの裾を雪で埋

める。それで、大きな音はしなくなったが、それでもばたばたという音はいつまでも継続している。再度、外に出てみるが外張りの裾は雪に埋まっているので、その音ではないようだ。入口の吹き流しをしっかりと締めてシュラフに潜り込む。

しばらくすると、圧迫感を感じるようになる。目を覚ましてみると、テントの壁に雪の線が中間近くまで付いている。吹きだまりになってテントが雪に埋もれかけている。登山靴を履いて外に出て、雪かきをする。テントの生地に触れるところはスコップを使えないため、手で雪をよける。今回、Hさんがスコップを持ってきたので、大助かりだ。スコップがなかったら、テント場の整地や雪かきに多くの時間がかかっていたと思う。

雪かきは、夜半に3回行った。3人で交代で行った。テントの外をのぞくが、真っ白で何も見えない。やはりモルゲンロートは期待できないため、ゆっくり寝ることにする。

朝食を作り、テルモスに入れるお湯を作って、テントの撤収にかかる。山側は真っ白だが、麓側には太陽も顔を出していた。新雪も30cmは積もったようだ。昨日作ったトイレも、ピッケルやワカンも全て雪に埋もれている。それらを掘り起こし、パッキングして下山にかかることにする。



2日目の朝、小遠見山に登り返す

昨日は、つぼ足で登ってきたが、今日はワカンをつける。ワカンの下に靴のつま先が落ちてしまい、下りはとても歩きにくい。何度も直し

ながら下っていく。新雪の上に、うさぎの足跡があった。強風にも負けていないようだ。

大遠見山から下ってきた単独の人が先に下っていったが、1,850mのところから北の尾根に入ってしまった。スキー場が見えたので、すぐに間違いに気がついて、先に下った人に伝える。その人も気がついていただろう。見返り坂の近くに来ると、続々と登ってくる人たちがいた。明日の朝は、快晴なのだろうか？

帰りもとんとん拍子に進んだ。テレキャビンを下りてバスの運行を聞いたら、すぐに駅まで行ってくれるという。とてもラッキーだった。電車もすぐに来た。北アルプスの山々は、まだ雲の中に隠れていた。大系線の電車に揺られ、いつの間にか3人ともうとうと眠りについてた。みなさん、お疲れ様でした。 記：網干

《参加者の感想》

待ちに待った日がきた。五竜岳へ続く尾根、遠見尾根。だいぶ前ゴールデンウィークにいった時と違う。山々は厳しい顔をしているようにみえた。冬のテント泊、一週間前からザックの重さを気にしていた。

歩き始めてから、息が荒くなっていく。やっぱり重い。鹿島槍や五竜岳が見える小遠見まで90分。時間は短いがその時の流れが一步一步おもく感じる。ぶつぶつ考えていてもとにかく登らないとならないので、数を数えながら登る

★鐘撞堂山(4月9日)

参加者 会員(障害者2名、健常者8名)
会員外(健常者1名)

この天気予報の難しい季節。一週間前の予報どころか、1日前の予報も当日には変わっていた。波久礼駅に降り立つと雨が降っている。それほど強い雨ではない。電車の中で、雨具を着

ことにした。それがよかったのか、リーダーの話が面白かったのか、あっさり目的地に着いた。

リーダーは電車の中で天気を気にしていた。能天気なわたしは晴れるものと信じていた。残念ながら、鹿島槍のモルゲンロートは見えなかったが、冬山の怖さを教えてくれた山行だった。厳しく、かつしっかりしたリーダーに感謝したい。冥土の土産にいいよと言われた鹿島槍のモルゲンロート。まだまだ早い、ということかもしれない。

同じ姿勢でいることが腰に負担になるにもかかわらず、大きなザックを担ぎ、狭いテントの中でお湯をなんども沸かしたり、夜中にゴーゴーと吹雪く外に出て、埋まっていくテントの雪をかき出したり、とおりにいっぺんの感謝の言葉で締めくくれない。山の楽しさ、厳しさ、人の弱さ、強さ、いろんなことを教えてくれる山や自然。そしてそこへ導き、身をもってそれを教えてくれるリーダーに敬礼、です。男(リーダー)はつらいですね。お疲れ様でした。いつか冥土の土産をもらいにまたトライしてみたいです。 記：S.Kさん

コースタイム

3/18 地蔵の頭(13:50)…小遠見山(15:50-16:00)…テント場(16:00)

3/19 テント場(8:10)…テレキャビン(10:00)

て出発準備は万端。参加人数は、直前で6人減ってしまったものの、11人の人数で歩きはじめる。

すぐに線路を横断してかんぼの宿の下を歩く。道標を確認しながらも、過去に一度歩いたことのあるSさんに案内してもらって、まずは少林寺を目指す。数日前に咲き始めた桜は一気に満開になった。

少林寺に着くと、ツツジも咲いている。屋根

のある大きな竈のようなところで休憩していると、通りがかったおばさんがすぐ上に東屋があるよと教えてくれる。気さくに声をかけてもらえてありがたい。



少林寺付近のサクラ

ここからは、五百羅漢が並べられた登山道を羅漢山まで上がる。羅漢さんは、みんな耳たぶが大きい。手ぬぐいを頭にかぶった羅漢さんなどもある。いろんな表情を楽しみながら登っていく。



五百羅漢を見ながら登る

羅漢山の山頂に着く頃、雨が止んできた。しかし、スマホでレーダー画像を見ると、もう一雨来そう。山頂には、ひときわ大きな羅漢さんが奉られている。全盲のAさんは、Nさんのサポートで大きな羅漢さんをさわりに行く。

ここから一度麓に下る。ピンクの八重のツバキがきれい。車道に出ると、その周囲も桜できれい。山道に入って登っていくと、Hくんがピンクのツバキを持っている。私の頭に飾ってほしいとのこと。「似合うわけないよ～」と思いながらも、H君の頼みを断るわけにはいかない。Iさんが写真を撮っていた。H君の頭に

も載せてあげる。



鐘撞堂山の山頂にて

鐘撞堂山の山頂が近づくと雨も完全に止んだようだ。山頂は、桜がたくさん植えられている。展望台に上がっているみんなは、桜に囲まれている。鐘のある所に行くと、榛名山や浅間山が見えた。大きな桜の咲く側は、長瀬アルプスが連なっているようだ。山頂の東屋で昼食タイムとする。鍋を持ってきている若者たちもいた。



鐘撞堂山山頂のサクラ

山頂の一角には密かに咲くカタクリがある。まだ花卉が反り返ってなくて、たれたままだが、今年はじめて見るカタクリなので、やっぱりうれしい。ジュウニヒトエも咲いていた。

山頂を後に下山にかかる。竹林を過ぎ、大正池を目指す。足下には、タチツボスミレ、エンゴサク、キケマンなどが咲いている。大正池の畔には、野鳥の聞きなしが書かれている。イカルは「ロクシ ニジュウシ」と書かれているが、私は「オキク ニジュシ」で覚えている。自分が覚えやすい聞きなしで覚えるのが良いのだろう。

途中でスーパーに立ち寄りながらも予定よりかなり早く寄居駅に着いた。もうすっかり雨は上がっている。春の雨に打たれながらも、桜や草花など春の風景を楽しめた一日でした。

記：網干

コースタイム

波久礼駅(9:40)…少林寺(10:15-10:20)…
羅漢寺山(10:35-10:50)…鐘撞堂山
(11:40-12:20)…大正池(12:50)…寄居駅
(13:40)

★大人と子どものふれあい登山（明神ヶ岳・明星ヶ岳）（4月16日）

参加者 会員(障害者2名、健常者9名
子ども4名)

ンアオイも咲いていた。ゼンマイもいくつか見つけた。

朽ちて使えない見晴小屋で小休止。丹沢方面がわずかに見えるが、あまり見晴らしが良いとは言えない。

初めての「大人と子どものふれあい登山」第1回目は、箱根の明神ヶ岳から明星ヶ岳への縦走とした。ややきつい行程だが、去年の「親子で目指そう富士登山」に参加した子どもたちだけなので、体力的には問題はない。

小田急線の車窓から富士山がよく見える。今日は山頂から富士山がよく見えるだろうか？ 空気中の水蒸気が多い春であることと、今日の予報が午後から曇りになっていることが心配の種だ。

大雄山駅で下車して道了尊行きのバスに乗る。終点の道了尊でバスを降り、最乗寺で自己紹介と体操を行って、出発する。



杉の植林帯が続く登山道を登っていく。足下には、ナガバノスミレサイシンやミヤマカタバミが咲いている。地味な花を付けるカントウカ



さらに登っていくと、防火帯に出る。植林帯から雑木林になったので、芽吹きの木々が美しい。アブラチャンも小さくきれいな花を付けている。タムシバも白い花を付けている。

野鳥は、コガラやメジロなどの留鳥の他に、コマドリやオオルリ、キビタキ、ヤブサメの声も聞こえた。今年はいつもより渡りが早いのではないだろうか？ 世界的な温暖化が進んでいるのだろう。

登るにつれ相模湾も見えるようになる。さらに大山や塔ノ岳をはじめとした丹沢の山々も見えるようになる。パイプから勢いよく水が流れ出ている神明水を過ぎ、その次は明神水となる。

トラバースにかかると、稜線は近い。子どもたちはとても元気に登ってくる。稜線に到着すると、後ろを見てくると子どもたちは走るように引き返していった。右膝が痛いと言っている

K君も、本当に痛いのかと思うほど、とても元気だ。



明神ヶ岳山頂から見た富士山と金時山

稜線に出て少し行くと神山や駒ヶ岳がよく見える。さらに行くと、I Tさんが山頂から下りてきた。こちらが30分ほど遅れていたのでもう引き返したのかと思い、下りてきたとのこと。2時間くらい待っていたようだ。いつも、気にかけていただいてとてもありがたい。



明神ヶ岳山頂にて

山頂に立つと、残雪を抱いた富士山が大きく見える。手前には金時山がたたずんでいる。ここで昼食タイムとする。時間的には予定より遅れているが、みんなとても元気だ。

集合写真を撮った後は、山頂を後に明星ヶ岳に向かう。これから行く道もところどころ見えている。背の高い笹を刈り払った登山道を歩いて行く。振り返ると登ってきた明神ヶ岳が見える。

宮城野に下る分岐を過ぎ、明星ヶ岳山頂まで行く。ここは展望がないが、大文字焼きで有名な山で、大文字山とも呼ばれている。分岐まで戻り、宮城野への下山道を下っていくと、大文

字の一番上に出る。木がかり払われているので展望も良い。箱根の町がよく見える。



明星ヶ岳山頂にて

シュンランやヤマルリソウを楽しみながら、ぐんぐん下っていく。車道に出て、橋を渡ると宮城野のバス停だ。ここでバスに乗りたい人もいたと思うが、今回は計画通りに強羅駅まで行く。最後の車道の坂をひとがんばりすると、強羅駅に着く。好天に恵まれた1日、久しぶりに登山をしたという人もいましたが、みんながんばりました。お疲れ様でした。 記：網干



ヤマルリソウ

《参加者の感想》

今年もまた山の仲間に出会える、孫たちは前日も早く寝てその日を楽しみにしていました。新宿駅で会ったとき、お互いに大きくなったねと子供の成長を驚き、喜びました。昨日は温度が高く、6リットル用意した水がどんどんなくなっていく。明神ヶ岳山頂に着いたときはすっかりなくなっていた。幸いFさんがポカリスウェットを持っていたので譲ってもらえた。子供達は声をあげて、とにかく楽しそうにしている。それを見にきたからわたしはうれしかった。自

己満足にひたる。Kさんの万歩計では3万歩だという。すごい。夢中になって、長い時間、仲間と歩いた一日、どうでしたか？大人になっても、いつか思い出してもらえたら、うれしい。

記：S.Kさん

★難台山・吾国山(4月23日)

参加者 会員(障害者3名、健常者6名)

会員外(健常者2名)

今日はすばらしい好天に恵まれた。昨晚は、以前いた会社の山岳部の先輩に誘っていただき、4名が愛宕山の麓の別荘に泊めていただき、Tさんの奥様の手料理を味わわせていただき、久しぶりにTさんの山の歌を聞いて楽しむ。Kさんからは国土無双という日本酒の差し入れもあった。山の話しや山の歌を楽しみつつ、いつの間にか眠りについてた。



新緑の道を歩く

岩間駅に全員集合するが、KRさんが手違いで遅れるらしい。M君とお母さんのFさんは久しぶりの参加。Fさんの話を聞き、ここまでの道のりの苦労などをお聞きする。今日、こうして一緒に再び山を歩けることを心からうれしく思う。

愛宕山は、サクラの山。4月上旬は、麓から見ると、山がピンクに見えるほど。今回はソメイヨシノの時期は終わっていたが、八重桜などが美しい。いつものように声出しの後、舗装道

コースタイム

最乗寺(9:30)…見晴小屋(10:50-11:00)…神明水(11:30-11:40)…明神ヶ岳(13:05-13:40)…明星ヶ岳(15:05-15:20)…強羅駅(16:45)

路を歩きはじめる。



春爛漫の愛宕山

舗装道路から整備された広い登山道へと入っていく。植林帯の場所もあるが、雑木林は、芽吹きや新緑、サクラの花などが色鮮やかで、うっとりするほど。低山の春は、紅葉の季節より美しいと感じる。足下には、タチツボスミレが途切れることなく咲いている。ミミガタテンナンショウやウラシマソウも咲いている。

まずは南山展望台に着く。山々の山腹は、芽吹きや木々やサクラ、新緑の木々などでほんわかした雰囲気を作り出している。まさに山笑う春の季節。とても美しい。足下には、スミレというスミレも咲いている。

展望台からは、いくつかのアップダウンを繰り返す。登山道はジグザグを切っていないため、かなりの急坂を感じる。Y君は、朝ご飯を食べなかったため、バテ気味。なかなかペースが上がらない。それでもがんばって登ってくる。後から追いかけてきたKRさんが追いつき、Y君に行動食を食べてもらって、Y君も少し元気が出たようだ。

筑波山がよく見えるところを過ぎ、さらにアップダウンを繰り返して、ようやく難台山山頂

に到着。芝生のような草の上に座って、昼食タイムとする。好天に恵まれてとても暖かい。M君もとても元気に登ってきた。



難台山山頂にて

難台山からの下りもなかなか急だ。お昼を食べた Y 君は、元気になってぐんぐん下る。みんな順調に下っている。しかし、ここからもアップダウンは続く。このコースは、標高は低いが、アップダウンの多いハードコース。それでもこの季節は、とても楽しく歩ける。



木漏れ日を受けて難台山を下る

車道と交差する道祖神峠を過ぎ、その先の洗心館の広場で休憩する。広場には、カントウタンポポが咲いている。ここから吾国山への最後の登りをがんばる。途中に伐採地があり、愛宕山や難台山がよく見える。春らしい色合いにうっとりする。

遅れてきた Y 君を待ち、さらに最後の急坂をがんばる。吾国山山頂からは、遠くに那須連山も見える。日光方面は女峰山が見えたが、男体山は雲の中でよく見えなかった。KRさんは、ここから下の道を通って愛宕山駐車場に戻るとのこと。今までこんなによい山だとは知らな

かったとのこと。近くにある良き山ですね。



難台山

吾国山からの下りは、カタクリ群生地を通る。カタクリの花はもう終わり。残骸の花弁を残しているものもあった。



筑波山と加波山

吾国山から下り、水田に出る。さらに畑の中の農道を歩く。柔らかな土の道は足裏に心地よい。振り返ると登ってきた吾国山が見える。Kさんが間違えて蹴飛ばしたのはアミガサタケ。クリームスープなどで食べるとおいしいらしい。



吾国山を背に農道を歩く

春爛漫の里の道を歩いて福原駅に到着する。みんなと一緒に帰りたいという Y 君は、友部

経由で柏まで一緒に帰る。人と一緒にいることが本当に好きな子だ。春の茨城の山は、とても優しかった。

記：網干

《参加者の感想》

最高の登山日和！陽も暖かく、ちょっと冷たい風は歩き出すとむしろ心地よく…

野の花々は「ワタシをみて！」とアピールしているようでした。

体調不良が続いていた長男ですが、この季節ならではの息吹にますます元気を貰えたようです。ありがとうございました。

アップの写真は満載のことでしょう！急斜面の上り下りに意識が集中しがちでしたので(汗)、改めて楽しみたいと思います。

記：F.Iさん

孫のYと山へ行く前日、Tさんの別荘に泊まらせていただきました。奥様の手料理と美味しい日本酒に酔いました。T夫妻、Kさんのおもてなしに感謝です。

★夕日岳(5月7日)

参加者 会員(障害者2名、健常者5名)

昨年のGWには満開だと聞いていたアカヤシオ。今年は開花が遅いようで、5月3日頃にはまだ咲き始めという情報だった。それでも、この季節は毎日、次々に開花するはずなので、アカヤシオが堪能できることを期待して、東武の電車に乗る。天気はますますだ。

東武日光駅でメンバーが集合する。タクシーで細尾峠へ。タクシーの運転手さんは日足トンネルを越えてから細尾峠へ向かう。長い日足トンネルは、幽霊がでるらしい。今日は、こちらの妖怪パワーに恐れをなしたのか、幽霊は出てこなかった。

久々にいただいた山菜の数々。前日に山に採りに行ったと聞いて、そこによばれたわたしたちはなんて幸せなんだと感じたものでした。Yも飽きもせずみんなの輪の中に入っている。大人も子供もない、そこは山男たちの世界でした。山の話はつきない。第2弾が待ち遠しい。

翌日の難台山、吾国山はTさんたちが二週間に一度整備しているというだけあり、とても歩きやすく、居心地のいい山でした。アップダウンがあり、なんかアスレチックな感じがよかった。新緑がまぶしく、風が気持ちよかった。無数のすみれを寝転がって撮るリーダーは健在だ。孫のYは岩間の山男さんたちにまた会いたいといっていました。人の温かさを感じたほっこりする2日間でした。

記：S.Kさん

コースタイム

愛宕山駐車場(9:00)…南山展望台(9:35-9:45)…団子石峠(10:10)…難台山(11:25-12:00)…洗心館(13:05-13:15)…吾国山(13:40-13:50)…福原駅(15:35)

タクシーの車窓から新緑の林やオオルリの歌声を楽しみながら乗っていると、細尾峠に到着した。今回は初参加の方もいないので、帰りのタクシーを予約し、軽いストレッチをして出発する。



半月山を背にアカヤシオの咲く尾根を登る

最初は片側が切れた箇所のトラバースなどがあり、慎重に通過する。M君のサポートをC

さんに担っていただく。

登るにつれてアカヤシオのピンクの花が楽しめるようになる。うすいピンクから濃いピンクまで、それぞれの個体で違っている。標高が上がると、木々はまだ葉も付けていない。葉を落とした裸の木々の中で、アカヤシオだけが目立っている。これが昆虫を引き寄せるアカヤシオの生存戦略なのだろう。



登っていくと樹林が切れ、皇海山方面が見える。さらに登ると薬師岳に到着する。山頂付近は、アカヤシオのトンネルだ。まだ満開になっていないが、とてもきれいだ。満開になったら、どれほどきれいなのだろうか？ 想像を絶するに違いない。薬師岳山頂からは、男体山がよく見えていた。

さらに尾根を進む。アカヤシオはまだ咲いている。歩きやすい道もあるが、アップダウンが続く。それでも、アカヤシオの花があるから疲れを感じない。



急な岩混じりの坂を下ったところで、M君がこれ以上は行かないという。無理はできないの

で、お母さんとCさんが付き添ってくださることになる。ただただ感謝です。



その先は急坂の登りで、少しきついところだった。ここを過ぎ、さらに登っていくと夕日岳が左手の木々の向こうに見えるようになる。登り着いたところが三ツ目の分岐点。夕日岳に登ったパーティーが三ツ目に登ってくる。その中の一人に見覚えが。以前、山仲間アルプの会員だったHさんだ。「まだがんばっているのだね」と感心していただいたが、こちらは今も現役で山に行っているHさんに驚かされた。Hさんのパーティーは、細尾峠から来て、古峰ヶ原方面に下山するとのこと。またの再会を願って分かれる。

夕日岳への尾根のアカヤシオは、まだつぼみが多い。ここも満開になったらすばらしいに違いない。



最後の登りをがんばると夕日岳に到着する。残念ながら男体山は雲に隠れてしまったが、日光白根山がよく見える。まだ雪をたくさん抱えている。左奥には皇海山も見える。山頂で少し

休憩し、M君達が待っているので早々に下山する。予定よりはかなり早い時間だ。

M君達と合流し、来た道を引き返す。逆に歩くと登りとはまた違った風景に見える。何度も見たはずだが、やっぱり良いなとアカヤシオを堪能する。薬師岳に着いたところで、KSさんからタクシー会社に電話をしていただき、予定より1時間早く細尾峠に来てもらうこととする。

少し厳しかったトラバース道もM君はCさんのサポートで順調に下りている。私は少し早めに下りて、待たせているタクシーの運転手さんに挨拶する。「タクシーに乗る」と何度も言っていたM君に、「タクシーがいたよ」と伝える。今日は、まさにアカヤシオ三昧の日でした。

記：網干



夕日岳山頂から見た白根山

《参加者の感想》

アカヤシオの可愛らしさ、美しさを堪能できました！まだ新緑芽吹く前の木々の中の、あの環境だからこそ美しさが際立ち、魅力が増しているんですね！

参加して良かったです。気分も高揚して、下山時には笑い話が弾みました。

アップの写真、楽しみです！マクロレンズ？からみた、また違う美しさを期待します！

★大人と子どものふれあい登山（雲取山）（5月13日～14日）

参加者 会員(健常者8名、子ども5名)

記：F.Iさん

足尾山塊の夕日岳は近くに住んでいながら、なかなか行けなかった山だった。今回はたくさんアカヤシオが咲くと言われる時期に登らせてもらった。アカヤシオは例年より遅いといわれていたが、あちらこちらに咲くピンク色のアカヤシオが目飛び込んでくる。新緑が目優しい。

男体山がどーんと大きく見える。夕日岳からは遠くにある白根山の高さが低く見える。女峰山や大真名子山も並ぶ。ここにきたかったから喜びもひとしお。芽吹いている草木は太陽の光を浴びている。この冬を越してきた草木からは元気パワーをもらえる。山はいい。家族のまたいくの？という声をあとに出てきた。やっぱりきてよかった。途中出会ったグループの人が私たちのTシャツをみて、山仲間だー、いいねといってくれた。とてもいい一日でした。

記：S.Kさん



アカヤシオ

コースタイム

細尾峠(10:15)…薬師岳(11:10-11:20)…
1,406m 付近(12:00-12:30)…三ツ目
(13:05-13:10)…夕日岳(13:30-13:45)…
三ツ目(14:00)…薬師岳(15:20-15:30)…細
尾峠(16:05)

☆5月13日

今回は土曜日が雨の予報で、日曜日は曇り時々雨の予報だった。土曜日は雨が激しく降るところもあるらしい。計画は、三峰神社から雲取山荘に行くコースだったが、このコースは岩場の痩せ尾根もあり、雨では子どもたちにかなり厳しいコースになってしまいそうだった。そのため、2日前に急遽コースをお祭から三条の湯経由で登るコースに変更する。幸い、三条の湯は13人の予約ができた。大変申し訳ないが、雲取山荘はキャンセルさせていただく。タクシーもキャンセルする。登山計画を再作成して、ホームページに掲載するという忙しい状況になったが、これで少し安心する。



三条の湯に向けて雨のお祭を出発

当日はやはり雨だった。しかし、激しい雨は丹沢等南部の山で、この付近はそれほど強くなかった。それでも降りしきる雨に負けないで、お祭を後に出発する。

林道歩きはずっと雨だったが、これまでに何度も出会っていたオオルリの定番の位置には、今年もオオルリがさえずっていた。



緑の豊かな道を歩く

3時間近くかかる長い林道歩きを終え、よ

うやく登山道に入る。沢沿いの登山道は、危険がいっぱいだが、子どもたちはいうことを聞かずにどんどん先に行ってしまう。大声で怒鳴るがなかなか止まらない。それでも、ある程度のところで待っていてくれる。スイッチが入らないとペースが落ち、スイッチが入ると行きすぎてしまう。子どもたちのコントロールは難しい。

テント場が見えると小屋は近い。小屋では、一部屋貸し切りで使わせていただいた。子どもたちは枕投げをするぞと張り切っている。大人達は、管理人さんやスタッフの方のギター演奏で、懐かしい歌を歌わせていただく。他のグループの方も一緒に食堂で楽しいひとときを過ごして、眠りにつく。雨はほぼ止んでいた。



三条の湯にて

☆5月14日

夜半に起きると星が見えたが、4時頃にはおぼろ月夜になっていた。残念ながらどんよりした曇り空。朝食は、予定では5時半だったが、5時10分には準備が整った。ご飯は竈で炊いている。お湯も竈で沸かしたものをいただくことができた。

小屋の管理人さんや昨晚子どもたちと遊んでいた登山者の方と一緒に写真を撮って出発する。

三条沢を渡ってからはずっとトラバースが続く。ところどころ崩れているところがあり、慎重に通過する。尾根を回り込むところで小休止。さらに長いトラバースが続く。尾根に出たところから、晴れていれば飛龍山が見えるのだが、今日は全く見えない。それでもいくらか霧

が晴れて隣の尾根が見える。



崩れた箇所を登る

ここからもトラバースは延々と続く。コマドリやヤブサメ、センダイムシクイ、ツツドリ、ヒガラ、ルリビタキ等の歌声が聞こえている。アカゲラかアオゲラかは分からないが、ドラミングも聞こえていた。

水場をすぎ、トラバース道が水平に進むようになると三条ダルミは近い。子どもたちから「あと何分で着くの？」と聞かれるが、間違うと何かを要求されるので、答えたくなかったが、「あと25分だね」と答える。少ししてまた聞かれると「あと20分」と答える。「全然減らないじゃないか」と子どもたち。子どもたちが時計を持っていなくて助かった。



三条ダルミに着いて走り出す子どもたち

ようやく三条ダルミに到着。子どもたちはいきなりかけだしている。まだ力が余っているようだ。

三条ダルミからが今日一番の登り。子どもたちに「がんばるぞ！」とハッパをかけ先導していく。この登りは子どもたちにも辛かったようだ。さすがに先頭を追い越してぐんぐん行こ

うとはしない。「そこが山頂だ」と言ったらもう少し先だった。子どもたちはぶーぶー言っている。それでも最後の岩場を登ると、山頂の一角に飛び出す。山頂では雲海が広がり、その上に残雪を抱いた富士山が浮かんでいる。飛龍山や国師ヶ岳方面も見える。雲取山も山頂付近だけが雲の上に出ている。がんばって登った子どもたちへのご褒美だろうか？

山頂でゆっくりしてから避難小屋に戻り、下山にかかる。少し下るとすぐに雲の中に入ってしまう。ピークを直登するコースとトラバースするコースがあるが、今回はトラバースルートを選ぶ。奥多摩小屋で休憩し、さらに進む。



雲取山山頂にて

ブナ坂からはトラバースした方が楽なのだが、途中に滑りやすい岩場などがあり、子どもたちが心配なので、セツ石山を登ってから下るコースを行く。試練の道だとも言えるが、なにより安全が最優先だ。



雲海の上に見えた富士山

セツ石山山頂で昼食タイムとする。細かい霧雨が次第に密度と粒が大きくなってくる。みんな雨具を付ける。昼食後は、セツ石山からの

長い下りにかかる。

七ツ石小屋で休憩する。小屋の前に張られていた鴨沢発のバス時間を見ると、計画していた16時3分発の前に、14時44分発のバスがある。1時間20分も何もない鴨沢で待つのは辛いので、少しがんばって14時44分に間に合うように下ることにする。標準タイムに近いタイムで下らなければならないが、がんばってみることにする。



子鹿が現れた

延々と続くトラバース道。堂所を過ぎ、朽ちた民家を過ぎ、下に車道が見えてくる。車道が見えてからも車道に合流するまではまだしばらくかかる。それでも、バスには間に合いそうだ。



七ツ石山山頂にて

車道に出て少し休憩し、近道に行く。子どもたちは元気だ。駆け足で下っていく。ここまで来れば転落するところはないので、ほぼ安心できる。コンクリートの道に出たところでみんなが合流する。そして子どもたちはまた飛ばす。

バスの発車時間まで15分近い余裕を持って鴨沢に到着。子どもたちもそうだが、大人も

本当にかんばりました。まだ誰も乗っていないバスに乗って、みんなまどろみの時間に入っていた。

記：網干

《参加者の感想》

予報は強い雨。孫たちはそんなことは関係ないよう。バスを降りてから雨の中を黙々と歩く。子どもたちは雨の中で喜ぶカエルのようにしゃいでいる。そんな姿を見ていたらこちらも元気になる。

三条の湯では温泉につかり、半袖で遊んでいる。宿泊者の方で子供たちと遊んでくれた男性がいて、定番のまくら投げ。見に行ったが、はちまきして「おれはまじでやるぞ」と真剣に遊んでいる。子どもたちのその積極さに感嘆する。どうしたら大人は遊んでくれるのか、あたってくださいろでみんなに声をかけていたようだ。そのご夫妻には心から感謝したい。山には人と人を結ぶ場所があるんだと思う。

雲取山の山頂では 雲しか見えなかったが、みるみる雲が消えて、あの富士山がかおを出してくれた。ひときわ高く。感動。子どもたちの目にはどう映ったろう。忘れちゃうだろうけど、経験したことは間違いない。

累積標高差（上り）2226m、（下り）2225m。子供たちはよく頑張ったと思う。湯ばばにはいくらか早かった。2017年、雲取山の標高も2017。思い出深い山となった。2日間、見守って下さった皆様ありがとうございました。

記：S.Kさん



幻想的な雑木林

コースタイム

5/13 お祭 (11:55) … 塩沢橋 (13:15-13:25) … 林道終点 (14:20-14:35) … 三条の湯 (15:00)

5/14 三条の湯 (6:00) … 三条ダルミ (8:35-

8:12) … 雲取山避難小屋 (9:15) … 雲取山 (9:30-10:00) … 雲取山避難小屋 (10:10) … 奥多摩小屋 (10:45-10:55) … セツ石山 (11:35-12:05) … 堂所 (13:05-13:10) … 鴨沢 (14:30)

★高水三山(4月21日)

参加者 会員(障害者5名、健常者6名)
会員外(健常者2名)

今日は、好天で夏のような気温になるらしい。朝はまだ少し肌寒く、半袖では少し寒かったが、軍畑の駅に着く頃には、気温も上がっていた。半袖になって車道を歩く。



ハルジオンに止まったアオハナムグリ

平滑川には魚が泳ぎ、カワトンボが舞う。高源寺の横の道路を上っていく。堰堤の乗越は急な階段だ。この暑さでは応える。堰堤を過ぎたところから登山道へと入っていく。

木陰のところは良いが、樹林が切れると直射日光が降り注ぐ。とても暑く、ばてる人が出ないか心配だ。尾根に上がったところで休憩する。尾根は風が通り心地よい。

尾根をトラバースするようになるとまた風が止む。しかし、時折吹き抜ける風が疲れを癒やしてくれる。針葉樹林帯は薄暗く、楽しくないが、林の向こうに見える緑の木々が美しい。そんな光景を楽しみながら登っていく。



高水山山頂にて

尾根をやや巻き気味に歩くと高水山山頂直下の常福院に出る。そのまま山頂へと登っていく。高水山山頂は展望がないが、ここで昼食タイムとする。周囲の緑が美しい。

高水山からはやや急な尾根を下る。その後は歩きやすい平坦な道となる。ヤマツツジが咲き、北部の展望が良いところもある。さらに歩き、登っていくと、樹林が切れているところが見えてくる。そこが岩茸石山の山頂だ。



岩茸石山山頂にて

岩茸石山は、展望の良い山頂だ。近くに棒ノ折山が見え、左奥には川苔山が見えている。この展望を楽しみにしていた人たちだろう。山頂では大勢の人たちが休憩中だ。

岩茸石山からの下りもなかなか急だ。岩の箇所

もあり、注意して下る。この頃から前と後ろの開きが大きくなって来る。時々、後ろの人たちが追いつくの待つ。暑さと久しぶりの登山などで、かなり疲れてきたのだろう。それでも、がんばって次のピーク、惣岳山を目指す。惣岳山の登りにも岩場がある。

惣岳山の山頂は展望がない。少し休憩して下山にかかる。御岳駅までは長い下りが続く。Y君は元気に下っている。ようやく下の方に家が大きく見えるようになってきた。登山道を終えたところで、後ろのグループを迎えに行く。少し遅れていたが、すぐに追いつき、一緒に下ってくる。

そこから御岳駅はすぐそこだ。踏切を渡り、駅に向かう。予定より少し遅れたが、新宿まで直行するホリデー快速が良いだろうというこ

とで、ひと電車見送って、次のホリデー快速で新宿に向かった。
記：網干



惣岳山山頂にて

コースタイム

軍畑駅(9:20)…高水山(11:40-12:15)…岩茸石山(12:50-13:00)…惣岳山(14:00-14:10)…御岳駅(16:40)

ハイキング 報告

★第48回ふれあいハイキング(増林)(3月12日)

参加者 会員(健常者6名)
会員外(健常者1名)

今回は、下見をしていただいたSさんと、越谷に住むSさんの友人のMさんに案内していただく。



花田苑にて

まず、越谷駅からスタート。越谷周辺は、シラコバトが見られる日本で唯一の場所。実際に野生のシラコバトを見つけることは難しいと思うが、マンホールの模様として描かれたシラ

コバトを発見。いろんなところにシラコバトの絵やモニュメントが使われている。

元荒川を渡って、アリタキ植物園を目指す。元荒川には、ヒドリガモやカルガモ、オオバンなどの水鳥が川の流に浮かんでいる。

久伊豆神社の参道を少し行くとアリタキ植物園がある。アリタキ植物園は、植物学者の故有瀧龍雄さんにちなんで作られたものらしい。入場料100円を払って中に入る。ボランティアの解説員の方が同行してくださるが、20分程度で観察したいと言ったら驚いていた。本当はもっとゆっくり1時間以上かけて、植物の勉強をしながら歩いた方が良いのだと思うが、聞いてもすぐに忘れてしまうので、ほどほどのところで切り上げて、次に向かうことにする。

植物園を出てから、参道を歩いて久伊豆神社に行く。藤棚が長く続いていて、花の季節には、とてもきれいなのではないかと思われる。久伊豆神社を出ると、次は花田第六公園だ。ここは、

能楽堂と日本庭園がある。そこまでの道は、統一感のある新興住宅街などを通していく。

立派な能楽堂を見て、日本庭園に行く。ここも入場料は100円。下見の時にはカワセミを見つけたというので、期待して中を歩いたが、残念ながら見つからなかった。しかし、岩の上でさえするセグロセキレイなどを見られた。私と男性のMさん以外は、抹茶をたしなんている。その後、美しい日本庭園を見ながら昼食タイムとする。

ここからは、新方川を渡って、水の涸れたたんぼを見ながら、何もない増林を歩く。カワラヒワが群れを作って、電線に止まっている。「キリリコロロ」とさえずっている。何もないここからは、富士山や筑波山が見えるはずだが、今日は春の陽気で遠くまで見渡すことはできない。しかし、足下にはホトケノザ、ヒメオドリコソウ、オオイヌノフグリが咲き、ツクシが顔を出し始めている。



からし菜の咲く土手の上で

林泉寺はただのお寺ということで、立ち寄らず、大落古利根川の対岸側を歩いて上流に向かった方が楽しめるということなので、少し下流側まで戻って対岸に渡る。

橋の上から黄色い花の群落が見える。当然、菜の花だろうと思ったら、それはからし菜だった。大落古利根川の左岸側は、からし菜の群落が続くすばらしいところだった。緩やかに流れ

る大落古利根川に沿って歩いて行くと、NIPPOの工場が見えてくる。その先の橋を渡るとすぐにバス停があった。予定していたキャンベルタウン野鳥の森は、鳥インフルエンザの影響で閉鎖中とのこと。下見をしていただいたSさんのおかげで、事前に情報得ることができて助かった。



からし菜の咲く大落古利根川の畔を歩く

今回は、17,000歩程度歩いたらしい。このままバスに乗らずに北越谷駅まで歩こうという意見も出たが、舗装道路を歩き続けたこともあり、バスに乗って北越谷駅に向かうことにした。

立派な公園や河川敷の美しさを堪能した一日でした。

記：網干



ホトケノザ

コーススタイルム

越谷駅(9:45)…アリタキ植物園(10:15-10:50)…花田第六公園(11:10-12:20)…新方橋バス停(14:00着)

★第49回ふれあいハイキング(印旛沼)(3月25日)

参加者 会員(障害者1名、健常者7名)

会員外(健常者2名)

週間天気予報では曇りだったが、近づくにつれて晴れマークが顔を出し、当日は風も弱い快晴。最高のハイキング日和に恵まれた。しかし、花粉も大活躍。しっかり花粉対策をして出発する。

計画ではすぐに印旛沼に行く予定だったが、Mさんから雷電の墓に行ってみるかと言われたので、行ってみることとした。まずは、印旛沼が見下ろせる公園に到着。「たんぼの丘」と呼ばれている宿内公園だったのではないだろうか？公園のすぐ下には、長嶋茂雄家の墓があった。



そこから雷電の碑を見に行く。墓も途中にあったとみなさんが言うが私は見落としたようだ。今日は墓巡りのようだ。雷電の碑からは印旛沼を目指す。印旛沼の手前には、長嶋茂雄氏が通った臼井小学校がある。その横を通って田畑の中の道を進む。一気に空が開け、その開放感に、Yさんが「いいね～」としみじみという。本当にそう思う。

印旛沼のすぐ手前の川で2羽のカワセミがじゃれついた後、どこかに飛んでいった。きれいなブルーの背中を光らせて飛ぶ姿を見られてラッキーだった。

印旛沼の畔に着いたところで休憩し、そこからは土手の上を歩く。鉄塔に1羽の猛禽類が止

まっている。トビのように見えたが、どうもトビではなさそう。その後すぐに飛び立ったので、翼を広げた姿や色を見てノスリだと分かった。飛び立ったノスリは私たちを中心に反対側の太いポールに止まった。さらに飛び立って真上を行く。「近すぎてカメラに入りきらない」とうれしい悲鳴が出るほど近くを飛んで去って行った。



モズやカワラヒワも写真に収まってくれる。今回、5歳のS君と一緒に参加したOさんは、時々疲れて歩かなくなったS君を抱いて歩いている。お父さんは大変ですね。だけど、筋トレにはなりそう！

風車のある佐倉ふるさと村で昼食タイムとする。ベンチもあってちょうど良い。パンジーもきれいに咲いている。チューリップは小学生たちが植えているようだ。それぞれの列に学校名を書いた看板が立っている。あと3週間ほどで満開だろうか？



昼食後は、さらに印旛沼の畔を進む。鹿島川に白鳥がいたが、この付近によく来る人が、こ

こ5年ほどは見たことがなかったという。今回は見られてラッキーだった。



印旛沼畔の土手をぐんぐん歩いて行く。土手の下の舗装道路は、サイクリングコースやマラソンコースになっているようだ。時々、マラソンコースの看板が見られる。東京では桜が開花したということだが、この付近はまだ開花しているものは一つもなかった。それでも、つぼみが大きくなってきている。開花も間近だろう。

ようやく双子公園に到着。ナウマン象の親子の象が設置されている。何でも捷水路の掘削工事中にナウマン象の化石が発見されたそうです。

この公園からは印旛沼を離れて、一路京成

酒々井駅に向かう。それでもまだ6kmあるとのこと。がんばって歩かなければならない。今回のIさんの歩数計の数値は、27,000歩。2月の北印旛沼が22,000歩だから5,000歩くらい多い。しかし、今回は好天で風が弱かったことと、舗装道路が少なかったことで、前回より疲れが少ないのだろう。

長い道のりをがんばって京成酒々井駅に到着。Oさん親子も最後までがんばりました。お疲れ様でした。
記：網干



コーススタイルム

京成臼井駅(9:50)…雷電の碑(10:30)…佐倉ふるさと村(11:45-12:20)…双子公園(14:10-14:20)…京成酒々井駅(15:50)

個人山行報告

★岩登りトレーニング(日和田山)(4月2日)

参加者 会員(障害者1名、健常者3名)

今回は、ゴールデンウィークに涸沢に入る3人を主として、アイゼンと手袋を装着しての岩登り講習を日和田山で行った。

男岩には何本もザイルがたれていたので、女岩南面で行うこととする。アイゼンを付けるとスタンスにごまかしで立つことができない。必ず、スタンスを確認して置かなければならない。なので、視覚障害者のKRさんには非常に厳しい練習になる。しかし、春の奥穂を目指す場合

は、アイゼンで岩と雪のミックス帯を登るので、アイゼンワークが非常に重要になる。少し厳しい練習をしておくことに意義がある。



アイゼンで登るKさん

また、手袋を付けると、握力に頼れなくなる。そのために、しっかりしたバランスで、足で登る必要がある。岩登りの基本通りに登ることが必要だが、アイゼンは滑りやすいので、厳しい練習となる。

みんな苦勞しながら登っていた。登った後はクライムダウン。クライムダウンは登り以上に

難しいのだが、ロープを張り過ぎていたようで、ロープにぶら下がるように下りてきていた人もいた。これはインチキだよ～。練習にならないじゃないか。

みんなが2本登ったところで、もう力を使い果たしたというので、少し早い今日は終了とする。お疲れ様でした。 記：網干

★涸沢岳(4月29日～5月1日)

参加者 会員(障害者1名、健常者2名)

☆4月29日

さわやか信州号で、上高地に5時20分頃到着。店の開くのを待って3人で、朝定食を注文する。腹ごしらえの後は、登山者カードを提出して出発する。今回は弱視のKさんと20代のHさんと私の3人だけ。人数が少ないのは寂しいが、少人数だとスピーディーに行動できるメリットもある。快適なペースで林道を歩く。

今日は曇り空で奥穂山頂は見えないが、時折日も差す時間がある。ゴジュウカラのフィフィフィというさえずりが、こだましている。コマドリやミソサザイの歌声も楽しめる。徳沢に着くと、アオジが姿を見せてくれる。黄色いおながきれいだ。徳沢のテント場は、まだ多くが雪原になっている。それでも雪のないところにテントが何張りか張られている。



梓川の畔は、ケショウヤナギの赤い小枝が美しい。小枝の繊細な紅色から「化粧柳」と呼ば

れるようになったらしい。北海道の日高と上高地にしかない貴重な植物だ。

横尾で水を満たして、横尾大橋を渡って登山道に入る。昔、雨を避けて一晩過ごした横尾岩小屋は、今は岩が落ちて岩小屋跡になっている。その対岸には、若い頃楽しませてもらった屏風岩が聳える。

残雪の道を行くが時折、夏道が出ているところもある。今年の積雪は、平年並みと聞いている。本谷橋のあるところからは雪渓歩きとなる。ここから上は土の道を歩くことはなくなる。横尾本谷を埋めるデブリは、底雪崩の恐ろしさを見せつけてくれる。デブリの上を歩いて涸沢へと入っていく。正面には前穂高岳と北尾根が見えてくる。涸沢への道のりはまだまだ長い。



涸沢の谷が南西側に折れ曲がり、涸沢ヒュッテに向けて登っていると雪がちらちら降り出した。この雪はしばらく降り続き10センチほどの新雪が積もったのだろうか？

涸沢ヒュッテの夜は、談話室でツアーの人たちとの一期一会を楽しむ。そして明日の好天を

期待して、早々に眠りにつく。

☆4月30日

3時半頃、外に出てみると星が瞬いている。すばらしい天気になりそうだ。

4時半には起床し、山々がモルゲンロートに染まることを期待して外に出る。すでに多くの人たちが出てきて、日の出を待っていた。5時過ぎに日が昇ったようで、奥穂高などがわずかに色づいてきた。今日の色づきはあまり良くないようだ。それでも、きれいな光景を楽しんでから小屋に戻って朝食を摂る。



涸沢岳の下を登る人たち

アイゼンとハーネスを付け、出発準備が整ったところで、Kさんがトイレに行きたくなったというので、その待ち時間を利用して、涸沢小屋方面に行ってみる。北穂沢を少し登って、北尾根の写真を撮る。戻ると、すでにHさんが私のザックを運んでくれている。申し訳ないことをしてしまった。



前穂高岳北尾根

トレースはしっかりと付いている。そのトレースに沿ってひたすら登る。Kさんは、しっか

り見えていないためにトレースを外れることがある。Hさんが後ろで適切にサポートしてくれる。それでもトレースを外れると疲れる。登るにつれてKさんは疲労の色が濃くなってきたようだ。それでもがんばって登る。

とにかく雪の山々は美しい。写真を撮りながら登っていく。登る人たちの様子も絵になる。空は真っ青で、真上は藍色のような青さだ。

涸沢岳の下をトラバース気味に登り、ザイテングラートを越えて小豆沢に入る。傾斜も次第に増してくる。しかし、確実に高度を稼ぎ、屏風の頭と同じくらいの方角になり、常念岳も同じ高さになってくる。もう白出のコルは近い。



白出のコルに到着

コルでは、穂高岳山荘の人たちが、除雪をしていた。舞い上がった細かい雪は、降雪のように落ちてきて頬をぬらす。風もあるので、寒く感じる。小屋の近くにザックを置き、ロープで結び合って、まずは奥穂高岳を目指す。



奥穂への岩場を登るKさん

最初の難関となる雪とミックスの岩場を慎重に登る。鎖やはしごを支点にしてセルフ確保を行い、KさんとHさんを確保する。3回ほど

それを繰り返し、雪壁の箇所まで来る。ここで少し登ってみるが、氷のように堅く締まった雪壁は、確実なアイゼンワークとピッケルワークが必要で、そこまでの練習をしていないので、今回はここであきらめることにして引き返す。

下りは、もちろん登り以上に慎重に下る。大声を出す、風に吹き消されてほとんど声は届かない。ザイルの残りの長さなどを伝えようとしますが、本番での岩登り等をしていないため、こちらのジェスチャーの意味も通じない。それでも、順調にコルまで下りてきた。

コルで昼食を摂り、今度は涸沢岳を目指す。涸沢岳の登りは、夏道通りにトレースがついている。コルから20分ほどで登頂する。山頂からは、槍ヶ岳と北穂高岳がよく見え、槍ヶ岳の左手には、遠くの立山から薬師岳、黒部五郎岳と続き、手前には双六岳などがよく見える。笠ヶ岳ももちろんよく見え、敗退した奥穂高岳もよく見えている。その右手にはロバの耳とジャンダルム、一段低いところに西穂高岳が見える。北穂高岳も見えている。常念岳、蝶ヶ岳はもちろん、槍ヶ岳の右奥には、針ノ木岳や鹿島槍も見えている。



すばらしい展望を楽しんだ後は下山にかかる。白出のコルからはアイゼンを外し、シリセードを多用して下る。最初は滑りにくかったが、途中からは快適に滑るようになる。しかし、ザイテングラートを越えたところでは、新しい雪崩が発生してトレースを隠している。まだなだれたばかりだと思って、周囲を見渡すと北穂沢

にも大きな雪崩の後がある。トレースは完全に消えている。事故があったのではないかと心配になる。そう思っていると、北穂の南陵側から雪崩が発生した。さらにガガンという音がしたので、そちらを見ると、垂直に近い岩場を雪がなだれ落ちている。昨日積もった新雪が、気温が上がって雪が緩んだ昼頃からあちこちで雪崩が発生しているようだ。

私たちが下っているところも雪崩の危険がゼロではないが、ほぼ大丈夫なところ。シリセードで飛ばして、コルから50分ほどで涸沢ヒュッテに到着した。早い行動はそのまま安全につながる。

今日、涸沢ヒュッテから下山した人が多く、ヒュッテは空いていた。談話室では、数年ぶりに再会した方がいた。年齢は82歳になったそうだが、明日は北穂に登る予定とのこと。82歳とは思えない元気さに脱帽です。



☆5月1日

昨日の夕方から曇っていた空は、朝から小雪が舞い始めていた。しかし、まだ降ったり止んだりのようだ。

下りは早い。涸沢ヒュッテから2時間で横尾に到着。林道も順調に歩いて、小梨平に11時15分頃到着。雨は明神を過ぎる頃から振り出し、小梨平では本降りになっていた。小梨平の日帰り浴場で汗を流してさっぱりする。

上高地からは計画より一つ速いバスに乗り、松本に向かう。松本電鉄の車内は、造花が飾られてとてもきれいだった。奥穂は登れなかったが、

涸沢岳に登ることができ、全員無事に帰ってくることができた。ホッとした気持ちで、スーパーあずさに乗り込み、新宿へと向かった。

記：網干

コーススタイルム

4/29 上高地(6:20)…横尾(9:10-9:35)…涸沢(13:30)

4/30 涸沢(7:00)…白出の科尔(9:45-10:10)…(奥穂方面)…白出の科尔(11:55-12:25)…涸沢岳(12:45-12:55)…白出の科尔(13:25-13:40)…涸沢(14:30)

5/1 涸沢(6:30)…横尾(8:30-8:40)…小梨平(11:15)

その他事業報告

○定期総会開催

5月28日(日)に第14回目となる定期総会を開催しました。1号議案から5号議案まで異議なく承認されました。なお、8月26日～27日に実施するふれあいキャンプは、青木湖キャンプ場を止め、いなかの風キャンプ場とし

ました。また、参加回数が年間10回以上の方には、記念品を贈呈することとしました。詳細は、次回の機関紙送付時に同封する定期総会議事録をご覧ください。

各種連絡事項

▲ふれあいキャンプのキャンプ場をいなかの風キャンプ場に変更しました

8月26日～27日に計画しているふれあいキャンプは、場所を長野県上伊那郡にある「いなかの風キャンプ場」に変更しました。インターネットで調べたところ、青木湖キャンプ

場はあまり評判が良くないようです。いなかの風は中央アルプスが一望できる展望のよいキャンプ場です。ぜひご参加ください。

会員情報

◎新入会員のお知らせ

3月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしくお願いします。(敬称略)
正会員
5名

●退会のお知らせ

残念ですが、3月以降、下記の方が退会されました。(敬称略)
9名

編集後記

・理事長のつぶやき

山仲間アルプが産声を上げた2003年4月19日から14年が経過しました。この間、月に3～4回の登山やハイキング等を継続して行ってきました。年間登山計画を立て、3ヶ月ごとに詳細計画を立て、登山等を実施して、写真やビデオを編集し、ホームページを作り、機関紙や登山計画の印刷、発送、さらに会計処理、理事会の運営、千葉県庁や法務局への報告書等の提出等々、よく継続できたものだなと思います。

・次回発行予定は、9月です。

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。
自然は、誰に対しても平等だよ！！

これも、会員のみなさまから多くの協力をいただいたおかげで、継続できたことです。深く感謝申し上げます。

ただ、私もいつまでも代表やリーダーを務められるわけではなく、次を担ってもらえる人を育成することが急務となっています。

法人の運営方法そのものの見直しを含め、ぜひみなさまからも考えていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで

〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208

NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝

TEL.047-484-8308

